

執筆者紹介（掲載順）

真弓 大芽（京都府立大江高等学校教諭）

坂崎 恭平（本学嘱託講師）

溝端 環太郎（本学卒業生）

杉岡 歩美（本学嘱託講師）

北上 真生（大阪歴史博物館学芸員）

城 阪 早 紀（本学人文科学研究所嘱託研究員）

編集後記

本号には、古典文学の論考一編と近現代文学の論考三編、資料紹介、語彙索引を掲載することができた。次号の第一〇一号が国文学会設立六十周年記念号となるため、本号は通常号となったが、卒業、修了後に各方面で活躍する会員諸氏から多数の投稿があり、第一〇号という区切りにふさわしい充実した内容となった。次号は投稿を受け付けないが、第一〇二号（十二月十日締切）にも積極的な投稿を待ちたい。

本誌創刊号の「刊行の辞」には、「国文学・国語学・国語教育」の「研究がいかにあるべきか」という「公的・社会的な意図の表明」が企図されたとある。本誌の研究活動は何を担い、何を行うことができるのか。人文学への風当たりが強い今、あらためて重視されるこの問いを念頭に、さらなる歩みを続けていきたい。